

第3章 歴史文化の特性

米子市は、鳥取県の西端にあって島根県に接しながら、山陰のほぼ中央に位置しています。北は明治の文人・大町桂月が「大天橋」と激賞した弓ヶ浜半島から日本海を介して隠岐諸島を望み、西は出雲の宍道湖に続く汽水湖・中海に接しています。南は豊かな農地と古来よりたたら製鉄で栄えた中国山地からつづくなだらかな丘陵が広がり、東には『出雲国風土記』で火神岳と呼ばれ国引き神話にも登場する名峰大山（伯耆富士）が抜群の存在感を示しています。このように変化に富み、風光明媚な土地柄に先進的で明るい歴史文化が花開きました。

こうした米子の歴史文化の特徴については、「古代文化」・「交流」・「城と城下町」・「交通」・「砂州の開発」・「祭り」・「鉄道」・「商都」・「地蔵信仰」・「大山」といったキーワードを抽出することができ、特徴あるストーリーを描き出すことができます。そして、こうした自然・風土・景観に恵まれた地に各地から集まり、豊かな文化を築いた米子人（よなごびと）が心の支えとし、口々に讃えるのが「大山さんのおかげ」です。

■石馬さんが語る原始・古代の歴史文化

魏志倭人伝や古事記・日本書紀などを除けば文献記録のほとんどない原始・古代の歴史は、地下に眠る遺跡の発掘調査により解明されてきました。特に淀江地域は、明治期の石馬の発見を契機として早くから考古学の調査研究が行われてきました。縄文、弥生、古墳、奈良・平安時代までの優れた遺跡が集中していることが明らかになっています。これは、この地がかつて淀江平野にあった古代淀江潟を天然の良港として、遠く日本海から望むことが出来る大山を目印とした海の交流における拠点であったことに由来します。南部地域と共に古代遺跡の魅力を体感できる地域といえます。

キーワード：古代文化、交流

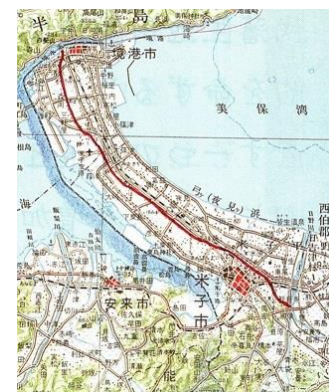
■交通の十字路としての歴史文化

中世から近世における米子は、東西方向には山陰道、北へは弓ヶ浜半島から日本海を渡って隠岐、南は日野往来で美作をへて備中・備後の山陽方面へ向かう、まさに山陰地方の交通の十字路としての位置を占めていました。戦国時代までは日野川東岸の尾高城が西伯耆の中心でしたが、吉川広家が月山富田城（島根県安来市）を離れ、大山寺の豪円僧正の御籤により中海に臨む湊山に新たに米子城を築いたことで、歴史地図に大きな変化が起こります。そして米子城の築城を契機として本格的な城下町・米子のまちづくりが始まります。大山山頂に朝日が昇るダイヤモンド大山を望む絶景の城として知られる米子城本丸からの360度の景観は、米子が山陰地方の交通の十字路として選ばれた地であったことを実感させます。

キーワード：城と城下町・交通

■砂丘地に挑み、生きた人々の歴史文化

原始古代から開発された大山山麓の淀江・南部地域に対して、中心市街地は城下町の形成により近世以降に急速に開発されましたが、弓ヶ浜半島は未開の砂丘地として残ります。やがて江戸時代中期に始まった日野川から水を引く工事により、米川用水が開通して弓ヶ



米川用水(赤線)

浜半島全域で新田開発や綿栽培が盛んになりました。それでも天災による飢饉は容赦なく人々の暮らしを脅かします。飢えに苦しむ人々を救ったサツマイモを導入した井戸平左衛門を祀る芋代官碑が各地に残ることが、砂丘地の開発の厳しさを物語ります。こうして砂丘地に挑んだ人々の暮らしの中には、弓浜緋や小正月のトンド行事、郷土料理のイタダキ（通称ノノコ飯）など、今日まで特徴ある歴史文化が継承されています。

キーワード：砂州の開発、祭り

■商都の繁栄を支えた近代化の歴史文化

江戸時代に城下町であった米子は、外堀を利用した水上交通を最大限に活かし、商業の町としても発展しました。近代以降も鳥取県西部の中心都市として位置付けられ、近隣の各都市と県境をまたいだ経済圏を形成し、開放的なヒト、モノ、コトの結節点として商都「米子」が発展します。こうした産業の近代化の前提条件となるインフラ整備として道路・鉄道・水道、発電施設などの近代化がいち早く行われました。特に明治期に山陰初の鉄道が米子を中心に開通して以降、山陰本線、伯備線、境線の結節点である「鉄道の町」として重要な役割を果たしてきたことは見逃せません。ただし、近代化には影の面もあります。今も残る旧海軍航空隊の戦争遺産は平和への誓いを学ぶ大切な歴史文化遺産です。

キーワード：鉄道、商都

■大山さんと地蔵信仰の歴史文化

米子のどこからでも、その美しい姿を見ることができる大山は、古くから神の坐す信仰の山でした。米子と大山は、古くからの参詣道である大山道（尾高道）でつながっており、大山信仰の中心である大智明権現の本地仏とされる地蔵菩薩の信仰は、米子を含む山麓地域に広がっています。米子の城下町を流れる加茂川や小路の傍らにたたずむお地蔵さんに、亡き人の成仏を祈って地蔵札を貼る「札打ち」や子供たちによる「地蔵盆」の祭りなど、お地蔵さんへの祈りは今も大切に引き継がれています。豊かな自然は、各地に残る「鎮守の森」でも感じることができます。開発などにより周囲の森林が消えていく中、信仰の対象である社を守る神聖な場として鎮守の森は大切にされてきました。ふもとに暮らす人々が日々「大山さんのおかげ」と感謝の念を捧げながら、大山を仰ぎ見る営みは今も息づいています。



大山と旧日野橋

キーワード：地蔵信仰、大山

